

スポーツウエルネス学学位プログラム (博士前期課程)
Master's Program in Sport and Wellness Promotion

授与する学位の名称	修士(スポーツウエルネス学) [Master of Sport and Wellness Promotion]	
人材養成目的	スポーツウエルネスの推進に携わってきた実務経験を基盤として、両者の相乗的な推進効果を生み出す理念と方法を理解し、そのための基本政策や戦略を企画・立案・分析する能力、必要な資源を査定しシステム化する能力、高度なシステムを適切にマネジメントする能力、合理的なプログラムを開発する能力等を有した実践的な高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	スポーツ団体、行政、企業等の専門家集団の中でリーダーシップを発揮しスポーツウエルネスの一層の発展に寄与する人材	
修了後の進路	競技団体、国立センター、地方自治体、教員、スポーツ・ウエルネス関連企業、博士後期課程への進学等	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論、スポーツ・ヘルスプロモーション方法論、スポーツ健康研究方法論Ⅰ、スポーツプロモーション論特講、スポーツイベント論特講、スポーツプロモーション研究方法論Ⅳ、スポーツプロモーション研究方法論Ⅴ、修士論文作成(特定課題研究報告書作成)、学会発表など
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	スポーツプロモーション論特講、スポーツプロモーション論演習1、スポーツプロモーション論演習2、スポーツイベント論特講、達成度自己点検、外部コンテスト等への参加など
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	スポーツ健康研究方法論Ⅱ、スポーツ健康研究方法論Ⅲ、スポーツプロモーション論演習1、スポーツプロモーション論演習2、スポーツプロモーション論実習、学会発表など
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	スポーツ・ヘルスプロモーション方法論、スポーツプロモーション論演習1、スポーツプロモーション論演習2、スポーツプロモーション論実習、学会での質問、セミナーでの質問など
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	スポーツプロモーション論特講、スポーツイベント論特講、スポーツマネジメント論特講、高度競技マネジメント論特講、ヘルスプロモーション論特講、健康開発プログラム論特講、ストレスマネジメントシステム論特講、国外での活動経験、留学生との交流など
6. 研究力: スポーツウエルネス分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力	① スポーツウエルネス分野に関する適切な研究計画を立案、作成ができるか ② スポーツウエルネス分野に関する適切な修士論文を完成させ、発表することができるか	スポーツ健康研究方法論Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ、スポーツプロモーション論特講、スポーツプロモーション論演習1,2、学会発表、修士論文作成(特定課題研究報告書作成)など
7. 専門知識: スポーツウエルネス分野における高度な専門知識と運用能力	スポーツウエルネス分野における高度な専門知識を修得し運用できるか	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論、スポーツ・ヘルスプロモーション方法論、スポーツプロモーション論特講、スポーツプロモーション論演習1,2、関連領域の学会や研修会への参加など
8. 倫理観: スポーツウエルネス分野の基礎的研究能力を有する人材または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識	スポーツウエルネス分野の基礎的研究能力、倫理観、倫理的知識を修得しているか	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論、スポーツ・ヘルスプロモーション方法論、スポーツプロモーション論特講、スポーツプロモーション論演習1,2、倫理講習会受講、APRIN など倫理関連の e-learning 受講など

学位論文に係る評価の基準	
<p>学位論文が満たすべき水準： 筑波大学大学院学則に規定された要件を充足した上で、学位論文が、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な課題解決力向上を支える研究力とマネジメント力 2. 俯瞰的な視野と柔軟な思考力 3. 様々な領域の人材とチームを組んで課題を解決する能力 4. 高度なプロジェクト推進力と解決力 5. 最先端の研究技法を駆使して、グローバルなレベルで問題解決できる能力 <p>の5つの評価項目について妥当と認められ、スポーツプロモーション分野、ヘルスプロモーション分野における社会的、あるいは学術的意義の高い論文であると判断され、かつ最終試験によって合格と判定されること。</p> <p>なお特定の課題についての研究成果(「特定課題研究報告書」という)の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。</p> <p>審査委員の体制: 修士論文の審査等を実施するために設置する学位論文審査委員会は、主査1名と2名以上の副査で構成する。</p> <p>審査方法及び項目等: 修士論文、最終試験(発表及び口頭試問)により、総合的に判断する。</p>	
カリキュラム・ポリシー	
<p>本学位プログラムには、スポーツプロモーション分野(SP)とヘルスプロモーション分野(HP)の2分野がからなる。スポーツならびにヘルス領域の基礎的、実践的な知識や技能を身に付けるとともに、スポーツとヘルスの相乗的な推進効果を生み出す理念と方法を理解し、そのための基本政策や戦略を企画・立案・分析する能力、必要な資源を査定しシステム化する能力、高度なシステムを適切にマネジメントする能力、合理的なプログラムを開発する能力を身につけるための教育課程を編成する。</p>	
教育課程の編成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・知の活用力: スポーツ・ヘルスプロモーション論概論、スポーツ・ヘルスプロモーション方法論、スポーツ健康研究方法論 I、スポーツプロモーション論特講、スポーツイベント論特講などで修得する。 ・マネジメント能力: スポーツイベント論特講、スポーツプロモーション論演習 1、スポーツプロモーション論演習 2などで修得する。 ・コミュニケーション能力: スポーツ健康研究方法論 II、スポーツ健康研究方法論 III、スポーツプロモーション論演習 1、スポーツプロモーション論演習 2、スポーツプロモーション論実習、学会発表などで修得する。 ・チームワーク力: スポーツ・ヘルスプロモーション方法論、スポーツプロモーション論演習 1、スポーツプロモーション論演習 2、スポーツプロモーション論実習などで修得する。 ・国際性: スポーツプロモーション論特講、スポーツイベント論特講、ヘルスプロモーション論特講、コミュニティスポーツプロモーション論特講、ヒューマン・ケア科学概論などで修得する。 ・研究力: スポーツ健康研究方法論 I,II,III、スポーツプロモーション論特講、スポーツプロモーション論演習 1,2などで修得する。 ・専門知識: スポーツ・ヘルスプロモーション論概論、スポーツ・ヘルスプロモーション方法論、スポーツプロモーション論特講、スポーツプロモーション論演習 1,2などで修得する。 ・倫理観: スポーツ・ヘルスプロモーション論概論、スポーツ・ヘルスプロモーション方法論、倫理講習会受講などで修得する。 <p>なお、学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、学術院共通専門基盤科目から 1 単位を履修することを推奨する。</p>
学修の方法・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・1 年次に、専門の基礎能力を修得するために、春学期に概論と方法論 3 単位(必修)が設定されている。 ・1-2 年次に、関連分野の基礎能力、プロモーション実践基礎能力、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を修得するために、スポーツプロモーション分野では、スポーツプロモーション領域とスポーツマネジメント領域のどちらかを、またヘルスプロモーション分野では、ヘルスプロモーション領域とストレスマネジメント領域のどちらかを選択し、選択した所属領域専門科目の特講、演習、実習及び隣接領域の特講を中心に計 11 単位以上を履修する。研究主題に関連する専門科目を、他分野の専門科目から 4 単位以上履修する。 ・以上計 30 単位以上取得する。
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業科目では、担当教員による厳正な評価を行なう。 ・2 年次 10 月の修士論文中間発表会にて、研究発表の内容が参加者によってピア評価され、指導教員から見て学位論文としての完成への見通しがあるものとなっているか評価される。 ・最終評価は、1 月に提出された学位論文について 3 名による査読を行い、併せて口頭試験を行い、総合的評価を行なう。

アドミッション・ポリシー	
求める人材	<p>体育・スポーツの推進並びに心身の健康増進にかかわる実務実績と基礎知識を有し、これを基盤としたリカレント教育を通して研究能力を高めようとする意欲や関心を持ち、高度専門職業人として各種関連領域で活躍できる人材を求める。</p>
入学者選抜方針	<p>推薦入試と一般入試を実施。配点は、推薦入試は書類審査 50 点、口述試験 50 点、一般入試は、書類審査 30 点、専門科目試験 30 点、口述試験 40 点で合計得点により選抜する。</p>

